

個 別 の 人 権 課 題		子 ど も	
校 种	中学校	本時に関わる 3つの側面	知 識 的 側 面 <input checked="" type="radio"/>
対 象 学 年	第3学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面 <input type="radio"/>
教 科 等	技術・家庭		技 能 的 側 面 <input type="radio"/>
单 元 名	家族・家庭と子どもの成長		

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

幼児と触れ合う活動などの体験を通して、幼児への関心を深めるとともに、自分なりの課題をもって、幼児の発達状況に応じた関わり方を工夫することができる。また、自分が通過してきた幼児期に関心をもち、様々な人々に支えられてきたことに気付き、自分も家族・地域社会の一員として幼児の成長を支える役割があることを理解することができる。

(2) 単元の計画

1次・・・幼児との関わり方の工夫（本時を含む）

2次・・・幼児の生活と家族

2 学習指導要領の該当箇所

中学校学習指導要領・第2章・第8節 技術・家庭（家庭分野）

2 内容 A 家族・家庭と子どもの成長

(3) 幼児の生活と家族について、次の事項を指導する。

- ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。
- イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。
- ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、関わり方を工夫できること。
- エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること

3 本時の目標

生活場面での幼児への関わり方を考えることを通して、幼児の心身の発達に応じた関わり方について工夫することができる。

4 人権教育との関わり

この単元では、幼児の生活と家族について学習する中で、個別の人権課題の一つである「子ども」に関連する内容を取り扱います。具体的には、幼児の心身の発達に応じた関わり方を考え実践することを通して、幼児の成長を理解し受けとめようとする、また、子どもも大人と同じように一人の人間として人格と人権をもっており、家族や地域社会は、子どもの人格と人権を尊重しながら成長を支える役割があることを理解することを大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識
価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	人権の視点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
技 能 的 側 面	人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<ul style="list-style-type: none"> 保育所訪問や家庭生活の経験から、幼児が言うことを聞いてくれず、どのように接すればいいか困ったことがないか想起する。 <p>【課題】日常の生活場面において、幼児の心身の健やかな成長のために、何を大切にしながらどのような関わり方をすればよいのだろう？</p>		
<p>■学習活動</p> <p>【野菜を食べようとしない子どもの食事場面を見て、家族、幼児それぞれの立場での会話を考え、子どもの成長にとって、家族が接するときに大切なことは、どのようなことか考えよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> できることが増えればいいと思うから、しっかりほめる。 しっかり成長して欲しいと思うから、いけないことはいけないとはつきり言うし、苦手なことでも克服できるよう声掛けする。 信頼関係が大切であり、「もう、食事をつくらないよ。」など、うそを言ったり脅したりするようなことは言わない。 	<p>○資料：「子どもの食事場面の図」（教科書）</p>	
<p>■学習活動</p> <p>【子どもの成長を支えるために、周りの人たちはどのように関わっているのか考えよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもへ影響を考えて、子どもへの関わり方を考えていくことが大切である。 例えばS市は、「保育所」「幼稚園」「認定こども園」「放課後児童クラブ」「放課後子供教室」、「子育て支援センター」「ファミリーサポートセンター」「養育支援訪問事業」等、子育て支援のいろいろな施設等を通して、子どもが健やかに成長できるよう支援をしている。 国は、「憲法」や「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」など子どもの権利を守る法律等に基づいて取り組んでいる。幼児はまだ心身の発達の途中であるが、大人と同じく一人の人間として権利がある。 	<p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権の視点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利に視点を当て、①親の関わり②国や地方自治体の関わり、と視野を広げて、子どもの成長を支えることは子どもの権利を尊重することにつながることに気付かせる。 <p>○資料：「親の子どもへの関わり方（自作）」</p> <p>○資料：子育て支援の例の紹介（教科書）</p> <p>○資料：「子育て通信」（S市）</p> <p>○資料：「児童の権利に関する条約 前文（抜粋）」「児童憲章前文」「児童福祉法総則（抜粋）」（教科書）</p>	
<p>■学習活動</p> <p>【学習事項を活かして、次の場面（例：おもちゃを買ってほしいと駄々をこねている場面や親に叱られて泣いている場面など。）で、幼児にどのような言葉かけや接し方をしたらよいか考えてみよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の気持ちも聞きながら、少しでもやる気が出て、成長の手助けになるような声かけや接し方をする。 <p>【まとめ】幼児の成長のために、家族は、子どもの人格を尊重し、子どもの発達段階や気持ちを考えながら、愛情をもって信頼関係を築くような関わり方をすることが大切である。</p>	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 憲法や関連する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族であるなしを問わず、法の下、一人一人の子どもがもつ権利は最大限尊重されるべきであることを確認する。 <p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能 <p>【指導上のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の心身の発達の特徴を理解し、子どもの気持ちを考えながら信頼関係を築くことができるコミュニケーション技能を身に付けさせる。 	